

令和2年度埼玉の子ども 70 万人体験活動

ふじみしりっふじみだいちゅうがっこう

富士見市立富士見台中学校

心肺脳蘇生法体験



第2学年

特色

本校では、2学年保健体育の保健分野の時間に、国士舘大学、防災・救急救助総合研究所より講師を招聘し、心肺脳蘇生法の講習会を行っており、AEDを組み込んだ救命救急の流れ（意識の確認 心臓マッサージ AED到着及び装着）を体験した。50分間、生徒一人一人が専用のミニAEDとマネキン（アンちゃん）を使い専門的な指導を受け、その意義や「疾病者が発生したときに私たちにもできる適切な行動」を学んだ。

児童生徒の感想

講習を受け、今まで知らなかったこと、これから生きていくうえで大切なことを学びました。人は、いつ、誰がどこで何が起こるか分かりません。もし、誰かが倒れてしまったとき、今回アンちゃんですべて実際に体験した心肺脳蘇生法をしっかりと生かせるようにしたいです。

この講習会で人の命の大切さを改めて知ることができました。手を止めると助かる可能性が低くなると聞いて、もし、自分の前で人が倒れたらと思うと怖くなりました。しかし、AEDの方法を学んだことで自分にも人を助けることができることを実感しました。

成果

実際にマネキンを使って胸骨圧迫とAED操作を体験したことにより救命がいかに大変か身をもって感じる事ができた。特に胸骨圧迫では、生徒はモニターを見ながら適切な圧迫ができているか確認しながら体験ができた。講習会を通して、私たちができる応急手当の必要性を学び、このコロナ禍の中でも改めて命の大切さと尊さに気付くことができた。